



# 熊本県内出土の

す え き

へ ん よ う

## 須恵器とその変容



須恵器(すえき)は、5世紀初め頃、日本列島に朝鮮半島から工人とともに渡来した新しい技術で作られた土器です。成形に「ろくろ」が用いられ、窯(かま)で高温で焼かれた須恵器は、硬質で青灰色を呈しています。様々な器種があり、変遷をとげながら平安時代まで作られ続けました。

熊本県内でも、古墳や横穴墓、窯跡、集落跡などから多くの須恵器が見つかっています。これらの出土品を通して、古墳時代から平安時代までの須恵器の移り変わりを概観します。



### ・・・主な展示品・・・

塚原古墳群(熊本市南区城南町)  
古城横穴墓群(熊本市中央区)  
北岡横穴群(熊本市西区)  
興善寺遺跡(八代市)  
下り山窯跡(球磨郡錦町)  
高橋南貝塚(熊本市西区)  
寺尾遺跡(宇城市松橋町)  
などから出土した須恵器



見学  
無料

令和7年(2025年)

6月17日(火) ▶ 9月26日(金)

月曜～金曜日 午前9時～午後4時

※土日祝祭日は休みです。

熊本県文化財資料室

(熊本県教育庁教育総務局文化課)

〒861-4215

熊本県熊本市南区城南町沈目1667 電話: 0964-28-4933

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/125/73467.html>

